平和 今こそ熟考

街の声 納得ほど遠く

安保関連法案の採決が強行された15日、市民はどう受け止めたのか。

奈良県三郷町、無職　吉田房彦さん(79)　大阪大空襲と学童疎開を経験しました。紙芝居を通じてその経験を学校や博物館で語っています。安倍首相は「米国の戦争に巻き込まれない」と言いますが、戦争は理論通りにはならないし、いったん始まれば後戻りもできない。今すぐにどこかが攻めてくる状況じゃないのに採決してしまった。大人の起こした戦争の犠牲になるのは子どもなのに。

富山市、主婦　嶋作恭子さん(83)　集団的自衛権を使えるようになれば、抑止力が高まるとは思えません。武器を使ったら、「平和」じゃないでしょう。70年前の富山大空襲の時、情報が統制されて生きるための情報は教えてもらえませんでした。もう少し若かったら東京へ行き、国会前で言いたいですね。「武力ではなく、話し合いで解決しようと努力するのが政治家の仕事でしょ」と。

大阪市旭区、介護福祉士　古元順子さん(40)　ネパール人の夫、5歳の娘と暮らしています。世界が平和であってほしいと思うけど、安保法案が本当に平和につながるのかな？　抗議デモの報道を見てると「こんなに反対する人がいるのに、なぜ国会を通そうとするの」と不思議です。安倍首相はどこを見てるのでしょうね。法案が必要な理由って常識ですか？　私にはまだ分からないけど。

東京都墨田区、そば屋の2代目　伊藤松博さん(37)　自分の暮らしに（安保法案が）どう関わるのか想像がつかず、どんな議論が進んでいるのかもよく分かりません。常連のお客さんから「店の周辺は東京大空襲で大きな被害を受け、隅田川に多数の遺体が浮いていた」と聞いたことがあります。戦争は嫌。でも、そばの原材料は高騰し、安保法案よりも日々の暮らしで精いっぱいです。

大阪市生野区、神戸大法科大学院2年　北川雄士さん(25)　自衛隊を海外に派遣するのであれば、特別措置法による「場当たり的な対応」ではなく、恒久的な法律で大枠を定めたほうがいいと思います。でも、今回のケースでは懲法を変えるのが先じゃないかな。安倍政権の様子を見ていると、他国が明日にも日本に攻めてくるかのような感じがします。すごく焦っている印象を受けます。

愛知県日進市、主婦　祖父江有希子さん(62)　国を守っていくには政府が手を打たないと前に進まないと思います。「反対だ」と騒ぐだけではなくて。日本の人たちで真剣に安全保障問題を考えている人は少ない。

青森県三沢市、元航空自衛官　若松靖夫さん(80)　30年ほど前と比べ、中国が台頭するなど国際情勢が緊迫していると感じます。採決の強行はやむを得ません。米国は日本を守るが、日本は米国を守らないのでは納得を得られないでしょう。（憲法の）改正には時間がかかる。政治はタイミングも大事です。

政治家 社会と隔たり

慶応大学教授　小熊英二さん

政治家と一般市民をつなぐ「回路」が細っている。昔の自民党は地域代表の集まりだった。支えているのが町内会や商店会、農協だったとしても、地域の声をよく知っていた。

しかし今では、こうした自民党の基盤組織は、一部の高齢者や利害関係者の声しか反映しなくなった。小選挙区制になって自民党候補どうしが争うことがなくなり、公認を受けたら集票は任せきりという議員も増えた。地盤を受け継ぎ、後援会長としか会わない二世や三世議員もいる。

昨年の衆院選前、民放番組に出演した安倍首相が、景気回復を実感できないという街の声に、疑問を示していた。私はあの時、彼は株を持っている人と公共事業の恩恵を受けている人にしか、普段会っていないのではないかと思った。

国会前の集会では、安保法制そのものへの反対より「勝手に決めるな」「民主主義って何だ」という声が多い。世論調査でも「わからない」が最多だ。これは自民党の基盤衰退、社会との隔たり、ひいては代議制民主主義の機能不全を示している。原発や国立競技場の問題も同じだ。

幸か不幸か、震災後の脱原発運動をきっかけとして、こうした状況に抗議の声をあげる人が増えた。震災時に中高生だった今の20歳前後は中高年と異なり、デモは自然な行為と思い始めている。こうした声が反映されなければ、日本の民主主義そのものが、正統性を失う危機に陥る可能性がある。

（聞き手・清水大輔）

日本人 もっと危なく

国境なき芸能団　笑福亭鶴笑さん

9年前に「国境なき芸能団」を立ち上げ、これまで三十数カ国で落語や玉すだれで「笑い」を届けてきました。日本は「戦争に参加しない国」と見られていたから、どこでも歓迎されてきました。

でも最近は事情が変わってきたのかな。昨年夏にアフガニスタンに行った時は住民がピリピリしていて、日本人が狙われる状況になったように感じました。そんな中での安保法案の委員会可決。また避難民キャンプの子どもの笑顔が見たいけど、今後はもっと危なくなるかもしれない。ほんまに困ります。

笑いは、どんな武器よりも平和にさせることができるんやと思う。イラクでは兵士も銃を置いて拍手してくれました。戦いは戦いしか生みません。どうすれば戦争が起きないか。戦争を止めるにはどうしたらいいか。国会では、そういう話をしてほしいですね。

（聞き手・広島敦史）

7/16 朝日